

第3回エコミュージアム研修会

日時／平成 17 年 9 月 21 日

場所／湯田町湯夢ぷらざ（ほっとゆだ駅 駅前）

演題：「黄金の道・秀衡街道を中心に」 講師：相澤 史郎

姥杉が切られそうになるのとケヤキ伐採事件がほぼ同時期

多聞院伊澤家の文書(もんじょ)では 1739 年の 1～2 年ぐらい前に、鬼柳通りの長兵衛という男が多聞院にやってきて姥杉を切らせろと言ってきた。花巻代官所は盛岡藩まで判子をもらうはずだから許可をくれと言った。当時の山は全部藩のものですが、寺や山伏などが二重に管理していた。それであわてた多聞院では、村の代表たちを集めて相談したら「そんなことはとんでもない、絶対にだめだ」となった。それで多聞院では鬼柳の長兵衛にあきらめてくれと言って脅しをかけた。花巻代官所や盛岡藩にも切らないでくれと訴えたそうです。話はそれっきりで、危なく切られるところで終わった。



また、大荒沢のケヤキ伐採事件についても 1739 年のことです。孫作がケヤキを切って事件になってつかまって、代官所のトップは腹を切り、残りの同心三人は首を切られた。仙台藩に売ろうとして仲立ちをした、黒沢尻の善三郎も花巻代官所で首を切られたようです。そのような経緯から孫作地蔵、首なし地蔵と呼ばれている。

南部藩はそのころから、財政が逼迫します。これまでは、金とか鉄など金属類で潤っていて、かなり豊かな藩でした。それが底をつきはじめて、今度は何を売ろうかというときに木に目をつけはじめた。調べてみたら江戸には、大きな大火はないですが大きな神社、仏閣の改修が盛んになっている。神社に使う古木や銘木は、非常に高かった様で一本で一山と同じくらいの値段がした。

あまりにもこの二つの事件が時を同じにしている。特に長兵衛という人はかなり自信を持って切るぞと言っている。どうも花巻代官所と通じているような気がする。孫作の事件も花巻代官所から許可の判子をもらっていますが、これは藩をあげて立派な木、非常に高い木を切って江戸に持っていく。藩財政をそういうもので潤わせようとして、商人と代官所あるいはその上、ある意味通じていたのではないか。代官所の下級の侍が犠牲になって、孫作や商人たちもうまくのせられたという感じがしています。

宮城県金成町(金売り吉次の話)

金売り吉次の伝説が残っているのが宮城県の最北端の金成です。ここに炭焼き藤太という男がいました。炭を焼いているということは、金とか金属を溶かす石炭のよ

うなものです。ですから大昔は、非常に金と関係がある。炭焼き場にごろごろしていた金を拾って京都に売って金持ちになる。そして子供が三人生まれて長男が吉次です。そして吉次が金売りの商人になって金成と京都を往復して、ますます金持ちになったという話がそっくり金成に残っている。金の採れるところには必ず金売り吉次が現れる。そしてその背後には炭焼きの藤太の伝説がある。

金売りの吉次は義経を連れて平泉にやってきたというのは事実のようです。そこで義経を藤原秀衝に引渡し、金売り吉次の伝説は終わります。ところが吉次が 1 人だったとは考えられないのです。吉次はいろんなところに現れ、いろんなところに屋敷をもって、そして盗賊にお金を奪われ、盗賊に殺されすいぶんとひどい目に遭っています。それでも次から次へと吉次は現れる。これは 1 人ではない、吉次集団がある。

平泉周辺には荘園がある。どうも京都辺りとは違って平泉周辺の荘園は宗教関係の人が、神様を信じれば幸せになる、農作物も採れる。というようなお札をつくって宗教を広めながら農地を広げていった。金成もそのような荘園の一つだと見ています。

峠の意味を言葉から探る

同じような名前の峠がこの辺りもありますが、金成の西の方でも同じ名前の峠がある。「続日本紀」に五つの峠がしめたとでています。そうかと思って湯田の地名をみると、似たような峠が西に向かってある。たとえば檜の峠は、檜(ひのき)が沢山あるからだが高橋文治さんに教わりました。ところが戦後、朝鮮半島からは、そこにお日様の日の峠と書いた標柱を建てたと聞いて、あれ？と思いました。

昔、東朝鮮半島からは峠に名前を付けて歩いていた。それには名前に「日」という言葉が入ります。日井峠など、井とか日が多い。何か意味があるのではないかと思います。これは必ずしもアイヌ言ではないなと思いました。これは今後の課題です。



講演する相澤史郎先生

◆講師プロフィール 相澤史郎◆

1931年岩手県北上市生まれ。

黒沢尻中学校（現黒沢尻北高校）を卒業後、青山大学文学部米英文学科に進学、同大学院を修了。東海大学文学部、教養学部で45年間にわたり教鞭を執りました。

現在、同大学名誉教授。日本現代詩歌文学館運営協会理事。

今年4月、みちのく民俗村村長に就任。詩人・劇作家として巾広く活躍され、東北の方言など常に故郷に目を向けた文化活動を行っています。著書に、詩集「悪路王」「夷歌」（丸山豊記念現代詩賞）戯曲集「相澤史郎戯曲集?」、評論集「薔薇と幻野」「くウラ」の文化」などがあります。